

2013年11月28日

全2頁

アメリカ経済を知る！ 第7回

経済に循環を生む設備投資

ニューヨークリサーチセンター
エコノミスト 笠原 滝平
上野 まな美

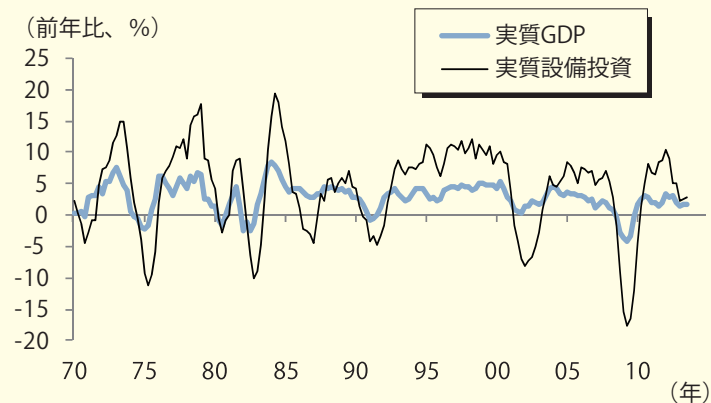
1 設備投資と耐久財

企業の生産活動に関係の深い設備投資は、個人消費と同様にアメリカ経済を見る上で非常に重要なポイントです。2012年の実質GDPにおける設備投資の割合は12%程度と大きくありませんが、老朽化した生産設備を更新するため設備投資は循環的な動きを示し、アメリカ経済の景気循環を形成する一つのファクターとなっています。また、生産能力増強のための新規投資は企業の先行き見通しなどによって決定されることや、大規模な投資を行う企業もあることなどから変動が激しい特徴もあります。さらに、設備投資は将来の生産活動の拡大、縮小に影響を及ぼすことも注目すべき理由の一つです。他にも、工場などを新設したら雇用者が増えるなど波及的な影響も想定されます。

GDP統計では、設備投資は大きく分けて工場などの構築物、製造設備などの機械、特許などの無形資産の3つに分類されます。現在のアメリカ経済において、設備投資のうち、最も規模が大きいのが機械投資で、全体の半分近くを占めています。

そのため、今回は設備投資の中でも機械投資に注目し、関連のある耐久財受注の統計を見ていきます。耐久財は、耐用年数で分けた分類で、機械や生産設備、自動車、船舶、飛行機などが含まれます。比較的高額ですぐに消耗しないため、購入頻度が少ない物を指し、比較的耐用年数がある物とされています。

図表1 実質GDPと実質設備投資



(出所) 商務省経済分析局より大和総研作成

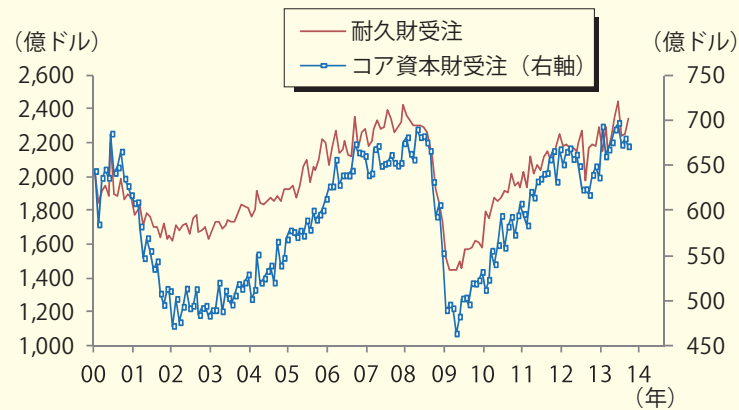
2 耐久財受注とは

耐久財受注の統計は、国勢調査局が発表する「製造業の出荷・在庫・受注統計」の一部です。この統計は、89業種にわたる製造業約4,300社を対象としており、製造業全体の出荷の約60%に相当します。データは新規受注、出荷、受注残、在庫についてそれぞれの金額が集計されます。当月の耐久財に関するデータが翌月下旬に速報値として発表、翌々月に耐久財の改定値とともに非耐久財のデータが発表されます。製品の注文が入ってからラグをおいて実際に出荷されることから、耐久財受注が注目される理由は、設備投資の先行指標としての重要性にあります。

耐久財受注のデータには民需に加えて軍需も含まれますので、民間の設備投資の動きを捉えるには国防関連のデータを除く必要があります。また、民間航空機は他の品目に比べて高額で、受注時期も不規則であるために、特に変動が大きいことが特徴です。さらに、耐久財の中でも将来の生産活動に寄与する製品である資本財に限定することで、設備投資の動向をより正確に把握することができます。このため、BEA（商務省経済分析局）ではGDP統計の設備投資を推計するときに、一指標として航空機を除く非国防資本財（コア資本財）の出荷額を利用しています。したがって、設備投資の先行指標として航空機を除く非国防資本財の新規受注の動向が注目されます。

留意点として、過去の受注がキャンセルされた場合は、キャンセルされた月に計上されるなど、民間航空機などを除いてもなお変動が激しいことが挙げられます。月次の変動だけを見ては設備投資動向を見誤る恐れがあるため、移動平均も併せて見るなど、設備投資のトレンドを確認することが重要だと考えられます。

図表 2 耐久財受注とコア資本財受注



(注) コア資本財受注は航空機を除く非国防資本財受注
(出所) 国勢調査局より大和総研作成

(以上)